

日本鉱物科学会 一般普及講演会

【演題】日本の鉱物学の夜明けと世界に知られた日本産鉱物
— 標本が語る、江戸期「本草学」から「鉱物学」開花への道 —

講師 石橋 隆 (大阪大学総合学術博物館)



水晶 日本式双晶 山梨県乙女鉱山産 左右 20 cm 比企忠標本 京都大学総合学術博物館蔵

我国の鉱物学は明治初年に西洋の知見を導入し急発展を遂げます。短期間での発展を成しえたのには、江戸期までの博物学的知識や鉱山技術蓄積の礎があったことが考えられます。本講演では、現存する江戸期の鉱物や鉱石標本を紹介し、前近代の本草学や鉱業から、金石学を経て鉱物学へと歩む歴史を辿ります。また博物館の日本産の古典鉱物標本を紹介します。我国では新種鉱物が約 150 余种発見されています。このうち今年発見された「北海道石」について解説します。

日時 2023
9/16 土
15:30~17:00

会場 大阪公立大学
8号館 820 教室
大阪市住吉区杉本 3-3-138



【主催】日本鉱物科学会
【共催】大阪公立大学理学部地球学科
【問合先】大阪公立大学理学部地球学科
篠田圭司 shinodakeiji@omu.ac.jp



ZOOM 配信もします
ZOOM 講演情報



詳しい会場
アクセスマップ

事前申し込みは不要です。当日直接会場へお越しください。入場無料です。